11. ２０１８年度日本数学会賞春季賞，出版賞の授賞について

【春季賞】

日本数学会賞受賞候補者選考委員会からの選考結果報告に基づき，春季賞は東京大学大学院数理科学研究科の木田良才氏に授賞されました．授賞理由は

‘離散群とエルゴード理論の研究’

（英訳：Study of discrete groups and ergodic theory）に関する業績です．また，３月１９日年会会場で授賞式並びに同氏による‘離散群のエルゴード理論の諸相’と題する受賞記念総合講演が行われました．

【出版賞】

出版賞選考委員会からの受賞候補者選考結果報告に基づき，出版賞はつぎの方々に授賞されました．授賞式は３月１９日年会会場で行われました．

遠藤 寛子氏『算法少女』

授賞理由：安永四年に刊行された和算書「算法少女」の成立をめぐる史実を下敷きにして，千葉あきという 13 歳の少女を主人公に，江戸時代において和算がいかに庶民のあいだに広まっていたかを生き生きと描き出した少年少女向けの歴史小説である．本書は，和算のみならず学問の魅力が一般向けに描かれていること，和算の雰囲気をなるべく正確に伝えていること，本書を原作とした漫画・アニメーション作品も発表されていることから，誰にでも楽しめる数学啓蒙書であり，本賞に相応しいものである．

奥村 晴彦氏，黒木 裕介氏『LaTeX2e 美文書作成入門』

授賞理由：本書は 1997 年に初版が刊行されて以来，改訂を重ねているロングセラーの書籍である．LaTeX のオーソドックスな基礎知識かつ最新情報を得られる書籍として定評があり，長年にわたって数学関連分野における LaTeX の普及に多大な貢献をしたと考えられる．日本語 LaTeX は本書で紹介されているアスキー系の pLaTeX のほかに，NTT-JTeX など多くの先達の努力の積み重ねによって発達したものであり，そうした過去の取り組みについても大いに評価しなければならないが，本賞が「出版活動などの著作活動」を対象としていることに鑑みて，本賞に相応しいものである．